

3 R 瓦版 (9 月号) 2018 年

負けるな!
エコおくん
イ作: フジコイトウ



© 2018 フジコ イトウ All Rights Reserved.

REPAIR
FACTORY

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254

『その廃液、捨てるの待って!』

○え? 有機溶剤もリサイクルできちゃうの?

「どうしてもっと早くやっておかなかったんだろう、もったいない!」
「こんな廃液がリサイクルできるなんて…」

新しいお客さんと取引が始まる時、よく聞かれるのがこのような会話です。
この業界で営業をしていてよかったなあと思う瞬間です。

売ってくるまで帰ってくるな! なんて仕事ではないからです。

お客さんに喜ばれ、環境にもよく、自分の成績も上がりますので、他業種の営業部門で大変な思いをしてきてから転職したわたしには、天国のような業界です。

○わたしたちの仕事

日本溶剤リサイクル工業会は、有機溶剤のリサイクルに携わる企業の集まりです。有機溶剤とは、シンナーやトルエン、酢酸エチルなどの、火をつけると勢いよく燃えるもの。

工場で使用済のこれらの溶剤を、わたしたちは主に蒸留という手法で再生し、リサイクル品を製造しています。



廃液



焼却処分
しないで…



蒸留



製品化

写真を見ていただくとわかると思いますが、ドラム缶に入ったドロドロした廃液は、どうしようもないと思われがちです。

「こんな廃液、もう燃やしちゃうしかないな…」と思っているお客さんがたくさんいます。そこに、「あ、これは価値のあるものですからリサイクル品の原料として買いますよ!」と提案すると、とても喜ばれます。

わたしたちは、そんな仕事をしている企業の集まりです。

○リサイクル品は品質が良い

わたしたちの製品が喜ばれるのにはいくつか理由があります。

再生溶剤はほとんどがバージン品より安いので、コストが少なくて済みます。

その他、実は、品質が非常に良いのです。

蒸留とは、不純物を残して欲しいところだけ抽出する手法です。

プラスチックや紙の再生と違い、リサイクルを繰り返せば繰り返すほど、どんどん純度がよくなっていくこともあるのです。

○困っている人にもっと会いたい!

会社よし、お客様よし、世間よし。

まさに「三方よし」の仕事をしているわたしたちの、まだお客様になっていないお客様は、たくさんいるはずですよ。

「捨てるしかない」「燃やすしかない」と思い込まれている、価値のある廃液が、世の中にはまだまだたくさんあると思うからです。

もし、あなたの会社にドラム缶置き場のようなものがあつたとしたら…?

これがどのように処分されているか聞いてみてください。

もし、燃やされているなら、わたしたち工業会に加盟している会社に問い合わせしてみてください。

今までお金をかけて燃やしてしまっていたものが、高く売れるかもしれませんよ!

日本溶剤リサイクル工業会/三丸化学株式会社 佐藤祐樹